

## 安全データシート

作成日：2002年06月07日

改訂日：2016年04月15日

## 1. 製品及び会社情報

製品名	インパクトA		
会社名	株式会社アテクト		
住所	大阪府東大阪市角田 2-1-36		
担当部門	品質保証部		
電話番号	072-967-7000	FAX 番号	072-967-7001
緊急連絡先	衛生検査器材営業部（電話番号 072-967-3512）		

## 2. 危険有害性の要約

## 【GHS 分類】

物理化学的危険性	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	皮膚腐食性/刺激性	区分 1 A
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
	発がん性	区分 2
	特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）	区分 1（呼吸器系）
環境に対する有害性	水生環境有害性・急性	区分 2

※記述のない GHS 分類は「分類対象外」または「分類できない」である。

## 【GHS ラベル要素】

絵表示またはシンボル

腐食性

健康有害性

環境



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
重篤な皮膚の葉傷・眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
発がんのおそれの疑い  
臓器の障害(呼吸器系)  
水生生物に毒性

注意書き  
安全対策

使用前に注意書きをよく理解して取り扱うこと。  
飲食または喫煙をしながらこの製品を使用しないこと。  
必要に応じて個人用保護具を着用すること。  
取り扱い後はよく手洗い、うがいをすること。

救急処置

眼に入った場合：強い刺激性があり、眼組織を腐食することがある。水で注意深く洗い、直ちに医師の手当て、診断を受ける。  
皮膚に付着した場合：接触すると刺激を生じる。大量の水で洗い流し、痛みが残るようであれば医師の手当て、診断を受ける。  
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。吐かせないこと。直ちに医師の手当て、診断を受ける。誤って飲み込んだ場合、灼熱感、咽頭痛、腹痛、咳、息苦しさ、息切れ、吐き気、下痢、嘔吐、ショックまたは虚脱等の症状があらわれることがある。

保管  
廃棄

換気の良い冷暗所で保管すること。  
内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物（液体）				
化学名（一般名）	無リンアルカリ性洗剤				
成分	CAS No.	化審法	安衛法	含有量	
水酸化ナトリウム	1310-73-2	1-410	公表	1.9%	
非イオン界面活性剤	社外秘			社外秘	
ポリ(オキシエチレン)ドデシル硫酸エステルナトリウム	9004-82-4	7-155		2.7%	
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	2-1679		0.3%	
グリコール系溶剤	社外秘			社外秘	
キレート剤	社外秘			社外秘	
水	7732-18-5	局方	公表	残量	
危険有害性成分	水酸化ナトリウム				
官報公示整理番号（化審法、安衛法）	既存化学物質で構成している。				
アセトアルデヒド、プロピオンアルデヒド、ヒマシ油等の日本国内で使用が認められていない原料・添加物を使用していない。					

### 4. 応急措置

飲み込んだ場合	吐かせない。直ちに口をすすぎ、コップ1～2杯の水を飲ませる等の処置を するとともに医師の手当て、診断を受ける。但し患者の意識が無い場合は口 から何も与えてはならない。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服等を脱がせ、石鹸で十分に洗い流す。刺激が残っていれば医 師の手当て、診断を受ける。汚染された衣服は大量の水ですすぎ洗いする。
眼に入った場合	直ちに清浄な流水で15分以上洗眼する。洗眼はまぶたを開き水が全体にい きわたるようにする。その後医師の手当て、診断を受ける。コンタクトレン ズ着用の場合にはできるだけはずすこと。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動させ、毛布等で保温し、安静にさせる。直ちに 医師の手当て、診断を受ける。必要に応じて酸素吸入や人口呼吸を行う。
予想される急性症状および遅発 性症	灼熱感、咽頭痛、腹痛、咳、息苦しさ、息切れ、吐き気、下痢、嘔吐、ショ ックまたは虚脱、皮膚の発赤、皮膚熱傷、痛み、眼の発赤、痛み、かすみ眼、 重度の熱傷。症状は遅れて現われることがある。
最も重要な兆候および症状 医師に対する特別注意事項	従って、安静と経過観察が不可欠である。

### 5. 火災時の処置

消火剤	水、泡、粉末、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	特になし。
特有の危険有害性	通常は引火しない。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特定の消火方法	加熱すると水分が蒸発し、残分は燃焼するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性または毒性のガスを発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器および周囲に散水して冷却する。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業は風上から行う。 指定の消火剤を使用する。
消火を行う者の保護	出来る限り流出物が配水管または水路に入るのを防ぐ。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

### 6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項、保護具お よび緊急処置	作業の際には保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用す る。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 密閉された場所に入る前に換気する。 風上から作業し、風下の人を避難させる。
環境に対する注意事項 回収・中和	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 少量漏出の場合、ゴム手袋を着用し、ウエス等で拭き取る。残りは大量の水 で洗い流す。 大量漏出の場合、拡散を防止する為、土砂でせき止めし乾燥砂等を使い回収 した後、大量の水で洗い流す。
封じ込めおよび浄化の方法・機材	危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

## 7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い

技術的対策  
局所排気・全体換気  
安全取り扱い注意事項

必要に応じ、適切な保護具、保護眼鏡、保護手袋等を着用する。  
「8. 暴露防止および保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。（禁煙）  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を与え、または引きずる等の取り扱いをしてはならない。  
接触、吸入、または飲み込んではいない。  
眼に入れてはならない。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。  
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。

保管

接触回避

保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。  
保管場所には危険物を貯蔵し、または取り扱うために必要な採光、照明および換気の設備を設ける。

混触危険物質  
保管条件

「10. 安定性および反応性」を参照。  
密閉し通風のよい暗所に保管すること。  
容器は直射日光や火気を避けること。  
容器を密閉して保管すること。

容器梱包材料

消防法および国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. 暴露防止および保護措置

管理濃度  
許容濃度（暴露限界値・生物学的  
暴露指標）  
設備対策

設定なし  
日本産衛学会 水酸化ナトリウム 2mg/m<sup>3</sup>(2009年版)  
ACGIH 水酸化ナトリウム STEL(C) 2mg/m<sup>3</sup>(2009年版)  
取り扱い場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置する。  
作業場には局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具  
手の保護具  
眼の保護具  
皮膚および身体の保護具

適切な保護マスクを着用する。  
適切な保護手袋を着用する。  
適切な保護眼鏡を着用する。  
保護長靴、長袖の保護衣等を着用する。  
作業中は飲食、喫煙はしないこと。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。

衛生対策

## 9. 物理的および化学的性質

外観  
臭い  
pH(1%)  
融点・凝固点  
沸点、初留点および沸騰範囲  
引火点  
爆発範囲  
比重（密度）  
溶解度  
オクタノール／水分配係数  
自然発火温度  
分解温度  
粘度

無色～淡黄色透明液体  
無し  
11.4 - 12.2 (20°C)  
データなし  
データなし  
なし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし

## 10. 安定性および反応性

安定性  
危険有害反応可能性  
  
避けるべき条件  
混触危険物質  
危険有害な分解生成物

通常取扱においては安定と考えられる。  
酸と激しく反応し、アルミニウム、スズ、鉛などの金属を腐食して水素ガスを発生し、これが空気と混合して引火爆発するおそれがある。  
日光、熱、酸  
強酸、金属、水反応可燃性物質  
データなし

## 1.1. 有害性情報

急性毒性 皮膚腐食性/刺激性	<p>急性経口毒性 (LD50) : 10800 mg/kg (Rat, 計算値) (GHS 分類 : 区分外)</p> <p>製品についての情報 : 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1)</p> <p>成分についての情報 : 水酸化ナトリウム</p> <p>ヒト皮膚に対して 0.5%以上で irritating(SIDS,2002)、severe corrosion (DFGOT vol.12,1999) を引き起こす。ブタ皮膚に対して 8%以上で corrosion(SIDS,2002)、ウサギ皮膚に対して 5%、4 時間で severe necrosis(ACGIH,7<sup>th</sup>,2001;PATTY,5<sup>th</sup>,2001)を引き起こすことから区分1A とした。</p> <p>成分についての情報 : ポリ(オキシエチレン)トデシル硫酸エステルナトリウム、トデシル硫酸ナトリウム</p> <p>ウサギ : 中程度～強い刺激性があるので区分2とした。</p> <p>成分についての情報 : グリコール系溶剤</p> <p>モルモット、ウサギおよびミニブタでは皮膚刺激性はなかったことから、区分外とした。</p> <p>成分についての情報 : 非イオン界面活性剤</p> <p>ウサギ、未希釈、4 時間 半閉鎖貼付試験(OECD404) : 区分外</p> <p>モルモット、10%水溶液、4 回連続塗布試験 : 平均評点=1.2 (判定基準と評点 : 反応は認められない=0、かすかな紅斑を認める=1、明瞭な紅斑を認める=2、紅斑と浮腫を認める=3、紅斑と浮腫及び疵皮または壊死を認める=4)</p> <p>成分についての情報 : キレート剤</p> <p>アルカリ性であるため、経験上、皮膚や粘膜を刺激することから、区分2とした。</p>
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	<p>製品についての情報 : 重篤な眼の損傷(区分1)</p> <p>成分についての情報 : 水酸化ナトリウム</p> <p>ヒト眼に対して severe,serious hazard を引き起こす(ACGIH,7<sup>th</sup>,2001; PATTY,5<sup>th</sup>,2001)。ウサギ眼に対して 1.2%以上で corrosive を引き起こす (SIDS,2002) ことより区分1とした。</p> <p>成分についての情報 : ポリ(オキシエチレン)トデシル硫酸エステルナトリウム、トデシル硫酸ナトリウム</p> <p>ウサギ : 中程度～強い刺激性があるので区分2Aとした。</p> <p>成分についての情報 : グリコール系溶剤</p> <p>動物に直性津点眼した場合、軽度の刺激性がある。50%溶液では眼刺激作用はなかったことから、区分外とした。</p> <p>成分についての情報 : 非イオン界面活性剤</p> <p>ウサギ、未希釈、OECD405 : 区分1</p> <p>成分についての情報 : キレート剤</p> <p>アルカリ性であるため、経験上、皮膚や粘膜を刺激することから、区分2とした。</p>
呼吸器感受性及び 皮膚感受性	<p>製品についての情報 : 分類できない</p> <p>成分についての情報 : グリコール系溶剤</p> <p>呼吸器感受性 : 情報なし</p> <p>皮膚感受性 : 20%水溶液では少数例(1.5%)に感受性の陽性が報告されたが、研究報告によっては発生率に差があり 1%水溶液でも陽性反応を示すヒトもいることから、分類できないとした。</p> <p>成分についての情報 : 非イオン界面活性剤</p> <p>呼吸器感受性 : 情報なし</p> <p>皮膚感受性 : モルモット、GPMT 法 : 陰性(類似品のデータ) モルモット、Buehler 法 : 陰性</p> <p>以上より、データ不足のため分類できないとした。</p>
生殖細胞変異原性	<p>製品についての情報 : 分類できない</p> <p>成分についての情報 : グリコール系溶剤</p> <p>Ames 試験において陰性であった。また染色体異常試験(ヒトリンパ球)では陰性に対し、染色体異常試験(マウス(生体内)、ハムスター(生体外))、DNA 合成阻害試験においては陽性であることから、データ不足により分類できないとした。</p> <p>成分についての情報 : 非イオン界面活性剤</p> <p>Ames 試験(TA98, TA100) : 陰とのデータがあるが、データ不足のため、分類できないとした。</p>
発がん性	<p>製品についての情報 : 発がんのおそれの疑い(区分2)</p> <p>成分についての情報 : グリコール系溶剤</p> <p>ラットおよびイヌへの 3 年間の長期混餌投与試験で腫瘍形成は見られなかった。</p>

	たことから、区分外とした。
	成分についての情報：キレート剤 ラットに二年間継続的に経口投与することにより、肝臓、腎臓の腫瘍が生じるデータが報告されている。
生殖毒性	IARCによるリスク評価は、グループ2Bであることから、区分2とした。 製品についての情報：分類できない 成分についての情報：グリコール系溶剤 マウス継代試験で5%のPGを給水投与しても親にも次世代にも繁殖及び生殖に影響はなかったことから、区分外とした。
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	製品についての情報：区分1(呼吸器系) 成分についての情報：水酸化ナトリウム ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こす(SIDS, 2002; ACGIH, 7 <sup>th</sup> , 2001; DFGOT vol.12, 1999; PATTY 5 <sup>th</sup> , 2001)ことより区分1(呼吸器系)とした。
特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	製品についての情報：分類できない 成分についての情報：グリコール系溶剤 6250~50000ppmをラットに13週間あるいは2年間、混餌投与しても毒性影響は誘発されなかった。 イヌに対して2000mg/kg/日の用量で2年間混餌投与しても重篤な毒性影響は得られなかったことから、区分外とした。
吸引性呼吸器有害性	製品についての情報：情報なし

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	製品についての情報：水生生物に毒性(区分2) 成分についての情報：水酸化ナトリウム 強アルカリ性のため水生生物に有害な影響を与える可能性があることから水生生物に有害(区分3)とした。 甲殻類(ネコゼミジンコ属)：48時間LC50=40.4mg/L(SIDS,2004)
	成分についての情報：ポリ(オキシエチレン)ドデシル硫酸エステルナトリウム、ドデシル硫酸ナトリウム Fathead minnow, 96h, LC50=1.2mg/Lなので区分2とした。
	成分についての情報：非イオン界面活性剤 ヒメダカ 96h LC50：4.0mg/L、ミジンコ 48h EC50：1.58mg/Lなので区分2とした。
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従って処理を行うか、または許可を受けた廃棄物処理業者に委託して処分する。環境中に放出する場合は、廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化および中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にし、法的基準を満たしていることを確認してから行う。
汚染容器および包装	空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去した後に廃棄する。

## 1 4. 輸送上の注意

国内規制	
陸上規制情報	毒物及び劇物取締法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別の安全対策	輸送前に容器が密閉されているか、液やガスの漏れがないか確認する。 容器の輸送および運搬は、常にしっかり固定した状態でいい、特にビンまたは缶は輸送中に衝突して破損することがないようにあらかじめ適当な緩衝物を使用する。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。 他の危険物のそばに積載しない。

## 1 5. 適用法令

労働安全衛生法	法第 57 の 2 名称等を通知すべき有害物 No.319(水酸化ナトリウム) 規則第 326 条 腐食性液体(水酸化ナトリウム)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	第一種指定化学物質等 (No.409: ホリ(オキシエチレン)＝ドデシル硫酸エステルナトリウム、No.275: ドデシル硫酸ナトリウム)
毒物および劇物取締法	該当しない
消防法	該当しない
船舶安全法	腐食性物質 危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1(水酸化ナトリウム)
航空法	腐食性物質 施行規則第 194 条危険物告示別表第 1(水酸化ナトリウム)
水質汚濁防止法	有害液体物質 (Y 類物質)

## 1 6. その他

引用文献	15911 の化学商品 (化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード (ICSC) 職場のあんぜんサイト (厚生労働省情報サイト)
------	---

この製品安全データシートは安全保証書ではありません。

本製品を取り扱う場合は、本文書の記載内容を参考として使用者の責任において実態に応じた適切な処置を講じてください。

また製品安全データシートの内容は、法令の改正および新しい知見に基づき改訂されることがあります。

以上